

福岡

重症障害者在宅6割超

九州初の 家族の負担重く 全域調査

重い障害のため日常的に介護を必要とする重症心身障害児・者は福岡県内で約3千人に上り、うち6割超の約2千人が家庭で過していることが9日、同県の調査で分かった。県単位の広域的な実態調査は九州では初めて。痰の吸引など医療的ケアを必要とする在宅者も少なくないと思われる。介護の負担が家族にのしかかっている現状が浮き彫りになった。県は親たちを休ませるため、一時的に障害児・者を福祉施設や病院に預かってもらう「家族のためのケア」(レスパイト)対策に本腰を入れる。

【30面に解説】

重症心身障害とは、日 理解したり判断する力に ち、断続的な痰の吸引や 必要な在宅者の 常的な動作や姿勢を維持 遅れがある状態をいう。 管を通じた栄養(食事) 実態はつかみにくい。福 するのが難しく、物事を こころした障害児・者のう の注入など、常に医療的 一岡をのぞく九州6県で

は、既存福祉サービスの 受給者数の把握にとどま るなど、本格的な調査に は至っていない。

家族の負担軽減を求め る声も根強いことから、 福岡県は昨年5月、調査 に着手。市町村を通じ、 身体障害者手帳(1、2 級)と、重い知的障害の

レスパイトケア

レスパイトは英語で「小休止」 どの意味。障害児・者や高齢者な どを在宅で介護している家族に 対し、一時的にそのケアを代行 することによって、リフレッシュ ユの機会と時間をつくってもら う家族向けの支援サービスをい も広がりがつつある。

う。施設への短期入所や、自宅 への看護師訪問などがある。佐 賀県や福岡県久留米市が受け入 れ施設に経費を補助するなど、 障害者向けのサービス 拡充は九州の自治体で



程度を示す療育手帳Aの 祉施設などの入所者が在 両方の所持者(同3月末 宅かを調べたところ、在 時点)を照合し、その数 宅が3分の2を占めた。 高い可能性もある」(関 を積算した。福祉サービ 同県は「施設への長期 係者)と想定。福祉施設 スの利用状況のほか、福 入所より、緊急時に対応 や病院に対する人件費や

重症障害者介護者ケア本腰

施設・病院と連携急務

福岡県

【解説】家で親が倒れ

【一面参照】

まつている。

たら、重い障害のある子どもはどうなる？。福岡県が実施した初の実態調査で、重症心身障害児

近年の医療の進歩で、かつては救えなかった重度の障害児が、親から医療的なケアを受けながら

同県は「受け皿となる病院や施設側の実態も細かく把握し、戦略を練る」

族を休ませるための一時入院事業を本年度から始めたが、対象は人工呼吸器の使用者に限られる。

なる支援サービスに比べて、障害児・者の家族をケアする対策は充実していない。制度が医療、保健、福祉など多方面に分かれ、「縦割り」の弊害も指摘される。障害のある人が日常的に通う病院や特別支援学校での支援策のあり方も併せ、総合的な検討が必要だ。

・者の多くが家庭ですごしていることが判明、県はようやく、その対策に重い腰を上げた。家族をケアする施設や既存の福祉サービスに限界がある中、医療、福祉の両面を備え、子どもを安心して預けられる場所をどう確保するのか。財源は限られており、利用者目線の施策を実現するには、病院や学校との連携も欠か

家庭で過ごすケースは増えているとみられる。

既に難病患者の介護家

齢者の介護者のケアにつ

（三宅大介）

はようやく、その対策に重い腰を上げた。家族をケアする施設や既存の福祉サービスに限界がある中、医療、福祉の両面を備え、子どもを安心して預けられる場所をどう確保するのか。財源は限られており、利用者目線の施策を実現するには、病院や学校との連携も欠か

福祉施設でのショートステイなど、家族側の負担軽減を図る支援サービスは現存する。ただこうした子どもの病状は急変しやすく、常時観察が必要となり、医師や看護師が常駐する施設でさえ受け入れを敬遠しがちだ。福岡市内でも、受け入れ可能な施設は数カ所にとど

福岡市内でも、受け入れ可能な施設は数カ所にとど

福岡市内でも、受け入れ可能な施設は数カ所にとど

福岡市内でも、受け入れ可能な施設は数カ所にとど